

平成24年度事業報告に関する書類

1 事業報告

区 分	内 容
<p>1 基幹調査研究等事業</p>	<p>(1) 都市政策に関する調査研究</p> <p>① 総合研究 「ユビキタスコンピューティングによる人に優しく活力ある都市づくりに関する調査」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研究の前提として福岡市が目指す都市像と、日本におけるユビキタス社会の形成の経緯について整理した。その中で、ユビキタス社会において利活用される ICT「データ」に着目し、福岡市の成長と生活の質の向上に寄与する「オープンデータ」をテーマに設定した。 ● 「オープンデータ」が世界的な動きとなっている経緯と先進事例を調査した。 <ul style="list-style-type: none"> - EU、OECD、米国の政策導入の経緯の整理。 - 政府部門と民間部門のオープンデータ活用の事例研究。 - 都市づくりや都市の活性化の観点から欧米とアジアの都市の取り組みを整理。 - アジアの都市では特にトップダウンで進めるシンガポール、実験から始め徐々に調整を図る香港、民間・自治体から国の動きへ発展させる台湾から福岡市への示唆を得た。 ● 福岡市が「オープンデータ」に取り組む際のスタートとなりうるデータを探った。 <ul style="list-style-type: none"> - グループ・インタビュー方式で、市内で活動するコンテンツプロバイダー、システムインテグレーターやソフトウェアエンジニアに参加いただいた。 - 交通、観光や生活に密着したデータのニーズが高いとの結論に至った。 ● 研究の成果として、①スモールスタート、②リーダーシップ、③ニーズ把握の仕組、④スキルトレーニング、⑤ビジネスに繋がる仕組み、⑥行政の体制整備と政策の位置づけ、の6つの側面から提言をまとめた。 <p>② 個別研究 「「知識創造都市」(ナレッジ・シティ)形成に向けた福岡市の政策課題に関する研究」(福岡市経済観光文化局との共同研究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 福岡市の市民総生産(GDP)は、ほぼ10年間にわたって停滞状況にあり、新しい都市成長の基盤を形成する有力な方向として、「知識創造都市(ナレッジ・シティ)」へと自己形成することに着目した。 ● このため、「知識産業」を統計的に定義し、抽出するとともに、統計法に則って総務省統計局から提供された「経済センサス(基礎調査)」の当該事業所名簿を基に「福岡市における『知識産業』実態調査」を実施した。 ● 当該産業振興のための政策の検討を行い、「知識創造都市」形成に向けた都市政策について提言をまとめた。 <p>③ 日韓共同研究(日韓海峡圏研究機関協議会) 日韓海峡圏研究機関協議会総会へ参加した。 研究報告「福岡・九州における韓国・中国インバウンド戦略」</p>

区 分	内 容
	<p>(2) 情報の収集・加工・発信</p> <p>① 都市情報の収集・分析・加工 平成24年7月に事務局に専任の情報収集・分析体制の強化を図るため、「情報戦略室」を設置し、都市政策に関わる情報の収集、分析を積極的に進めた。</p> <p>② 都市政策資料室の運営 アジア地域を含む都市政策関係図書、調査・研究成果、行政資料等を収集し提供した。</p> <p>③ 刊行物の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民とともにまちづくりを考え、討議し、発表する媒体として、都市情報誌「f U+」を1回発行し、市民、賛助会員等へ配布した（発行部数第12号1,800部）。 ● 研究所の研究成果、国内外の都市政策に関する寄稿等を掲載する研究紀要の日本語版を1回、英語版を1回発行し、賛助会員等へ配布した（日本語：発行部数第14号900部、英語：発行部数第6号150部）。 <p>④ インターネットホームページの活用 研究所の事業概要及び研究成果をインターネットで情報提供した。</p> <p>⑤ 都市セミナーの開催（6回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いつまでも地域で元気に「福岡アジア エイジングフォーラム」 （平成24年4月7日 参加者：114名） ● 「全国歴史とまちづくりの全国大会」城下町を彩る福岡・博多の歴史的風景 （平成24年6月2日、3日 参加者：計228名） ● 「福岡・九州のアジアビジネス戦略」 －「アジアにおける福岡ビジネス圏の形成に向けて」研究報告会－ （平成24年7月5日 参加者：85名） ● 「福岡城・鴻臚館を観光都市福岡のランドマークに」 （平成24年11月1日 参加者：392名） ● シンポジウム「福博回廊 - みんなで造る風景街道 - 」 （平成24年11月26日 参加者：200名） ● 国際シンポジウム「都市のオープンデータ推進とアジアの事例」 （平成25年3月7日 参加者：94名） <p>(3) 人材の育成</p> <p>① 市民研究員受入れ（6名） 市民から研究員を募り調査研究を行った。 ・募集テーマ「水辺、海辺を活かすまちづくり」</p> <p>② 若手研究者研究活動奨励（2名） 若手研究者の研究活動を支援し、その育成を図るために研究活動費を助成した。 [対象者所属]九州大学大学院、西南学院大学大学院</p> <p>③ 短期研究員受入れ（0名） ※ 25年度に向けて制度の見直しを行った。</p> <p>(4) ネットワークの形成</p> <p>① アジア太平洋都市サミット（会員都市：30都市（13カ国）） アジア太平洋都市サミットの事務局業務として、第10回アジア太平洋都市サミット市長会議に関する事務を行い、アジア太平洋地域の都市及び国連機関とのネットワークの形成、都市問題の解決を図った。 第10回アジア太平洋都市サミット市長会議 開催日：平成24年7月26日～28日 開催地：浦項市（大韓民国） 参加都市：23都市（10カ国）</p>

区 分	内 容
	<p>② 日中交流プラットフォーム形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アジア都市景観賞を国連ハビタット福岡本部を含む3団体と共催で運営し、第3回の授賞式を福岡市で開催した。 ● 中国社会科学院老年科学研究センターなどとの交流協定の締結や、中国での講演会開催などを通じて研究機関とのネットワークを強化したほか、「住み良いまちづくり」などをキーとした視察受入や意見交換を積極的に行った。 <p>③ 国際視察・研修受入 韓国の高齢者分野、中国の都市デザイン分野を中心に8ヵ国・地域、延べ38団体、600名を受け入れた。</p>
2 受託事業	<p>受託研究等の実施</p> <p>「超高齢社会に対応した社会システムの再構築に関する調査業務委託」</p> <p>「福岡の大都市制度研究に関する調査業務委託」</p> <p>「福岡城・鴻臚館を整備した場合の経済波及効果に関する調査」</p> <p>「平成24年度機能総合型コミュニティの評価手法の研究開発における事務業務およびフォーラム事前調整業務」</p>